

農大と 図書館・博物館・動植物園を結ぶネットワーク

学術情報課程通信

農

博物館のロマンティシズム

東京農業大学「食と農」の博物館長

木村 李花子

ネズミ、馬具、モノリス、南極飯、この一見全く関連がない言葉の羅列はいったい何でしようか？ではさらに、百姓貴族、農具、発酵と続けば、そう、これは「食と農」の博物館が近年発表してきた展示のテーマです。「食と農」の垣根をあちらこちらに、飛び越えてしまったかのようですが、ここには通底する大きな基盤があります。

それは総合科学と博物学の補完です。博物学は最新科学によって、収集する資料や出来事に新しい視点を投げかけることができます。逆に最新科学は、博物学の幅広い視野を研究に取り込むことによって、偏った先鋭化を回避できるかもしれません。そしてリアリズムを標榜する科学は、同時にある種のロマンティシズムを持っているのですが、それは博物学的ロマンと非常に近いものであるように思います。博物学が企てて来た世界の多様さの発見と、科学が読み解こうとした世界の神秘、この2つが違う手法を使いながらも同じベクトルを持っているからではないでしょうか。

例えば、「マウスという名の鼠展」ではベットのねずみの毛色の遺伝操作に血道を上げる江戸庶民の風俗が紹介されていますが、実はメンデルに先駆けること100年以上前の出来事だという事実が明かされます。これに驚いていると、片や最先端科学の結晶である二母性マウスが現れるのですが、このねずみには「かぐや」という名がつけられて、父や母といった概念を持たない天女の物語の国民的記憶がオーバー

ラップしていきます。また、「J O Z O O 醸造と発酵のせかい展」では最新の研究成果と共に醗（もろみ）が発酵する際に奏でる音を聞くことが出来ました。この音はるか昔から現在へと、醸造の秘密を伝承しているようです。あるいは「両極の馬具展」は農と武の馬を比較する事で、日本文化の根底に流れる家畜への意識を炙り出し、「自然の中の数学展」のように自然界が持つ法則性や美を、数学で読み解こうとする壮大な試みが行われたこともありました。

このように「食と農」の博物館は総合科学と博物学が手を伸ばせる、ほとんど全ての分野を網羅する博物館であるといえるでしょう。そして大学附属の博物館という性格から、迅速に研究成果を発信でき、幅広い分野にわたるキュレーションの奥深い世界を見ることが可能なのです。

「食と農」の博物館は登録博物館を目指しています。一般入館者の方にとっても、学術情報課程の学生諸子にとっても、蓄積された博物資料と展示から、さらに瑞々しい知的体験を受け取っていただければこれに勝る喜びはありません。

ところで、皆さんは当館の柱の陰から博物館の基を作った田中芳男や、横井時敬の魂がそっと見守っているのを感じたことはありませんか？ある時は榎本武揚も加わって。彼らが近代の学問に触れた時に抱いたような感動を、私たちが新しい価値に出逢った時にも忘れたくないものです。

令和5年度
資格取得
状況

東京農業大学

資格取得者数

学 部	農学部	応用生物科学部	生命科学部	地域環境科学部	国際食料情報学部	生物産業学部	科目等履修生	合計
学芸員	86	10	23	27	11	28	1	186
司 書	24	6	4	15	7	—	0	56

令和6年度 学芸員・司書関連新規就職先一覧

令和7年2月現在

	学 科	就 職 先
現 役 学芸員	大学院地域創成科学専攻(前期)	柏崎市立博物館
	大学院地域創成科学専攻(前期)	株式会社 地域環境計画
	森林総合科学科	一般財団法人 公園財団
	動物科学科	公益財団法人 横浜市みどりの協会
	生物資源開発学科	小泉アフリカ・ライオン・サファリ株式会社
	生物資源開発学科	株式会社 日比谷花壇
	生物資源開発学科	公益財団法人 日本生態系協会
	生物資源開発学科	公益財団法人 横浜市みどりの協会
既 卒	大学院バイオサイエンス専攻(前期)(令和5年修了)	東京おもちゃ美術館(パート)
	バイオセラピー(令和3年卒)	公益財団法人 横浜市みどりの協会
	地域創成科学科(令和5年卒)	板橋区立教育科学館
	農芸化学科(令和6年卒)	科学技術館

	学 科	就 職 先
司 書 現 役	農学科	株式会社 有隣堂
	農学科	株式会社 テクノスジャパン
	農芸化学科	葛飾区立図書館
	醸造科学科	富士ソフト株式会社

- 検索技術者検定3級合格者8名
(4年生:農学部3名、応用生物科学部1名、地域環境科学部2名、3年生:地域環境科学部1名、国際食料情報学部1名)
- 特許検索競技大会ファースト・ステップ・コース認定者55名
(4年生:農学部19名、応用生物科学部9名、生命科学部7名、地域環境科学部14名、国際食料情報学部6名)

関連組織に新しく就職された方は、是非、下記までご一報ください。

農事遺産 ⑬

— 農大古農具コレクション「クロオシ」 —

筆者の郷里、岩手県奥州市では田植えが近づく5月、農家の人たちが畔のひび割れや、ネズミやモグラの巣穴で破損した箇所を修復し、水田の漏水防止の目的で取り組む風景がある。これは畔の表土を削り、新たに水田の泥や土を鍬で掬い塗り押す作業である。

また栃木県今市市には、写真の様なクロオシ(畔押し)と呼ばれる農具を用いた作業も。これは前述の作業に更に畔幅に被せて使用するもので、箱型の様な形に103・0cmの柄も付いており、一見、柄杓(ヒシヤク)のような興味深い形をしている。これを両手で押して仕上げる。郷里では、クロオシを使用することはないが、いずれも大変な作業だったに違いない。現在は動力エンジン付きのクロオシ機で作業をしている。

(Y)



資料名:クロオシ
栃木県今市市
1975年収集
柄の長さ103.0cm、上底10.5cm、
下底20.5cm、高さ15.0cm
(撮影 T)

表紙:「PIED SNAKE」フレデリック・ボルドール・ノッター画
銅板手彩色『自然科学者の雑録』 1790年イギリス刊行 学術情報課程所蔵

学術情報課程通信 第13号

GAKUJUTSU JOHOKATEI TSUSHIN

東京農業大学
学術情報課程 発行〒156-8502
東京都世田谷区桜丘1-1-1
電話 03-5477-2512

レイアウト・印刷／共立印刷株式会社

令和7年(2025)年2月28日 発行

<https://www.nodai.ac.jp/academics/info/>

編集後記

学芸員コースでは「食と農」の博物館との共催で、企画展「南極飯」を開催中。極地研究を支える「いつもの食事」は、多大な努力と最新技術に支えられていました。司書コースでは、新たに参加した「特許検索競技大会」で、4年生55名に成績優秀証書が授与されるなど、「情報の目利き」を育成するプログラムが加速しています。

(R)



昭和薬科大学 薬用植物園 教育技術員

中野 美央 NAKANO Mio

1976年 神奈川県生まれ
1999年 東京農薬大学農学部造園学科卒業
2004年 昭和薬科大学勤務、現在に至る

「令和6年度植物園功労賞（植物園協会）受賞おめでとうございます。」

——中野さんの考える植物園の魅力を教えてください

薬用植物は地味なものが多く、植物園だと思って訪れた人々から「花があまり咲いていない」と言われることもあります。しかし、私自身は地味な花を見つける瞬間が好きです。緑色や茶色の花を発見することや、種子の模様や形、鞘や果実の構造を観察する楽しみがあります。雌雄異株の植物で、雄株だから実がつかなかったのか、当園には雄株しかないんだ、という発見も楽しいです。

——現在はどうなお仕事をされていますか

現在の植物園では、圃場で漢方薬の原料になる植物を管理するのが主な仕事です。栽培や除草、必要に応じた伐採、温室の管理に加

え、事務作業や園長のサポートも行っています。また、大学生の実習で顕微鏡の使い方から観察までを指導するほか、月に1度、一般向けの薬草

——植物園の道を選んだきっかけは何ですか

植物園で働くようになったのは、造園学科を卒業後、花屋でアルバイトをしていた頃の経験がきっかけです。本に書かれた育て方を伝えるだけの仕事に違和感を覚え、実際に植物を育て、その経験を伝えたいと考えようになりました。様々なアルバイトを経て現在の植物園に出会い、アルバイトから嘱託、そして大学職員、更に教育技術員としてステップアップしました。この植物園に出会えたことは幸運だったと感じています。

学んだ知識を生かせる場所

私は大学を志望する際に、取れる資格を重要視しました。志望前に取りたかったのは、図書館司書と博物館学芸員の2つの資格でした。小学校の頃から本好きのため図書委員を担当したり、地元神奈川県横浜市の博物館を回り、親にわがままを

株式会社図書館流通センター（TRC）

澤田 伊織 SAWADA Iori

1997年 神奈川県生まれ
2020年 地域環境科学部森林科学科卒業

言って国立科学博物館に恐竜を見に行ったりとそんなこともでした。通常の勉強では国語好きになったり、歴史好きになったり、化学好きになったり、生物好きになったりと、とりと

めのない人間でしたが、大学志望前には、生物を勉強できる場所で見たいという意思が固まっていました。そんな意思を組んでくれる大学が、東京農業大学でした。

実際に学ぶと、好きだけでは覆せない現実を見る機会が増え、就職活動時には幅広く、学びを活かせない場所も受けましたが、結果株式会社図書館流通センター（TRC）に就職しました。大学の講義時に上がっていた指定管理者制度で図書館を運営している企業。そんな専門的な印象を持つ企業に就職し、初めにした業務は営業事務でした。専門的であっても活かすことも学びなおすこともできず、初めての経験に慌てふためきながらも生きていました。

転機があったのは、社会人3年目で営業になった時です。いままでバックヤードで見ていた営業になり、初めは上司の横に座ってお客さまへの説明を聞き、書き起こし覚え吸収するという機会を積んでいました。次第に時がたつにつれ、事務業務ではあまり活かす機会のなかった、大学で学んできたことが活き始めました。TRCは図書館に納品する図書や、TRCMARC作成、指定管理者などの受託事業を基幹事業として行っています。司書で学んだMARCへの知識、学芸で学んだ「見せる空間」への認識は、新規に立ち上げる図書館での意匠へのアイデア出しで生きました。

日々忙しく働いておりますが、ここ大学で習った知識が活かせる！と感じた瞬間ほど働いて嬉しいときはありません。もし、学んだ知識を活かせる場所を探しているのでしたら、図書館現場や博物館の現場以外にも就職先はあります。あなたの知識を活かせる場所を是非見つけてください。

——植物の新規導入はどのように決定しているのですか

日本薬局方（医薬品に関する品質規格書で生薬も載っている）に記載されている生薬の基原植物で、当植物園内に無い植物がまだ多く存在するため、そのような植物の原料をみなさんにみせたいという思いからそういった植物を優先して新規導入をしています。育てるのが難しい植物については枯れてしまうこともあるため、何度も導入することもあります。薬になる植物や有用植物を導入しています。みせたいものや重要なものを最優先にしています。

——中野さんの研究についてお聞きしたいです

現在レンギョウの調査を始めたところで、右も左も分からない状況ではありますが、農大の先輩が研究をみて下さっています。植物の判別の仕方や考え方、研究の進め方など、月に1回集まって指導頂いています。ありがたい限りです。

——植物を育てる上で難しいところや工夫しているところはありますか

冬場は温室内の温度が10℃以下にならないように設定しています。隙間風がどうしても入ってきてしまったため花が咲かないののではないかと思います。断熱材を使ってぬくぬくに温めていましたが、逆に過保護にすぎた植物が冬から春の訪れのような気温差を感じられなないので花芽が分化せず、花が咲かないのとはアドバイスをもらったことがあります。アドバイスを受け、極端に水を控えた冬越しを実践したところ多くが枯れてしまったという経験もあります。植物が「しゃべってくれたらいいのにな」と思いつつ、いろいろな試行錯誤を続けています。

——中野さんほどのような学生でしたか

昔から博物館が好きでした。実は学術情報課

将来の夢は動物園の飼育係

小さい頃から生き物が好きで、幼稚園の卒園の頃にはすでに、「将来の夢は動物園の飼育係」になっていました。その後、高校の進路相談の時に「畜産学科を出ると動物園の飼育係になれる」と先生に教えてもらったのが東京農業大学に入学したきっかけです。さらに、学芸員の資格を取ることで博物館、動物園方面への就職の可能性が広がると知り、学術情報課程を履修しました。

大学生を送る間に趣味の合う仲間とも出会い、好きだった野生生物の知識もより深まりました。そして、自然ガイドなどの仕事にも興味を持ちました。しかし、山奥で野生のニホンジカに出会った時、その美しさ、たくましさを感じ、「この感動を多くの人に知ってもらいたい。そして自然が好きなのが增えて、これまでに以上に自然を大切にしてくれる人が増えてほしい。」と強く思い、より多くの人が訪れる動物園という業界に進もうと決めました。

卒業後は多摩動物公園で嘱託員として1年間勤務し、翌年、埼玉県こども動物自然公園に正職員として採用となりました。これまでに、コツメカワウソ、コアラ、キリン、ポニー、ウシ、フンボルトペンギンなど様々な動物の飼育に携わってきました。

動物園という場所はただ珍しい動物を飼育して、陳列する場所ではありません。その展示を見れば野生に行かなくてもその動物のことを知ることができる施設です。そのためには、日々の飼育管理と同じくらい「伝える」という仕事が大切になります。動物の解説パネルを制作したり、ガイドをしたりする



公益財団法人 埼玉県公園緑地協会
埼玉県こども動物自然公園

長島 拓志 NAGASHIMA Takushi

1995年 埼玉県生まれ
2018年 農学部畜産学科卒業

仕事です。伝えるという仕事において、学術情報課程で習ってきた経験は大いに役立ちます。これからも来園者に楽しみながら自然、生き物の魅力を感じてもらえるように努めていきます。



取材 永岡彩月、荘司充希（動物科学科4年）
橋爪瑠唯（デザイン農学科4年）

程を履修していたのですが、試験直前まで勉強ができず、最後の授業で慌てて授業中にそれまでの授業の内容を勉強したのですが、友人が言うには試験では最後の授業で先生の話に出た内容がそのまま出題された、ということとで単位を落としてしまいました。現在、先生という立場になったことで、当時の先生の苦悩を痛感しています。実習中に学生に教えたばかりの内容をすぐに聞き返されると、「話を聞いていなかったのかな」と感じることもあります。それはかつての自分にも思いあたる部分があります。このような経験を通じて、教える側の視点を学び、学生たちにより効果的に伝えられるよう努めています。

——学芸員を目指す後輩へメッセージをいただきました

大学で学ぶことは、先生方が必要だと思っ